エコライフの実践

布おむつ育児のすすめ

＜昔ながらの布おむつを見直してみませんか？＞

まだ紙おむつが普及していなかった昭和５０年代頃まで日本ではずっと布おむつが使われてきました。

布おむつは洗濯の手間がかかりますが、洗って繰り返し使えるのでゴミが出ず、綿素材なので赤ちゃんの肌にも優しく、定期的に買うお金や手間もかからず、経済的です。

＜布と紙を使い分けてみては？＞

興味はあっても紙おむつから、全て布おむつに変えるのは難しい、という方へは、布と紙を使い分けてみることをオススメします。

一　例

★ 夜間は紙おむつ、日中は布おむつ
★ 保育園では紙おむつ、休日の家では布おむつ
★ 外出時は紙おむつ、家では布おむつ
★ ふだんは布おむつ、忙しい時や疲れている時、体調の悪い時は紙おむつ
★ レンタル布おむつを利用してみる
（汚れたおむつは洗濯と乾燥を業者がしてくれます）

A.K

おすすめ図書

アズマ　カナコ著
（文芸社）

ダンポストで胸が痛まなくなりました

夏場は特に食べ物は腐りやすく、果物や野菜くずもたくさん出ます。今までもったいないと思いつつ捨てることも多かったのですが、ダンポストを使って堆肥になると思うと安心です。少しの虫は出ますが臭いはほとんどなく、１１月頃にできる堆肥での球根植えが楽しみです。（K.S）

編・集・後・記

レジ袋の調査では、各店舗の店長さんから忌憚のないご意見やご回答をいただきまして、大変ありがとうございました。今回の調査結果を踏まえると、ごみ会議が中心となり事業者及び行政が一体となったレジ袋有料化への取組の重要さを改めて痛感しました。

毎年10月は、国や関係団体により、マイ・バック・キャンペーンを全国で展開します。このマイ・バック持参は、地球温暖化防止のために、私たち消費者が簡単に取り組めるものの１つです。ぜひご一緒に、この機会に取り組んでいきましょう。私もマイバックを忘れずに、いつもポケットにしのばせたいと思います。

（M.M）

発行・編集　あきる野ごみ会議　　問い合わせ先　あきる野市　環境課内　TEL　558－1842

ごみ情報誌　　発行・編集　あきる野ごみ会議

へらすぞう

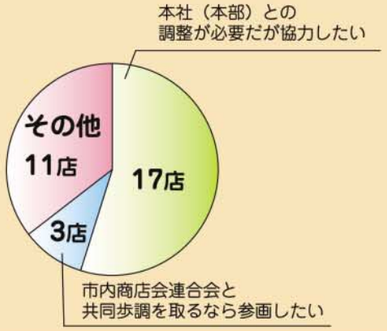
げんんくん　第12号　2009年10月　ヘラスゾウ

あきる野ごみ会議は、市民・事業者・市の３者が協力して活動している団体です。

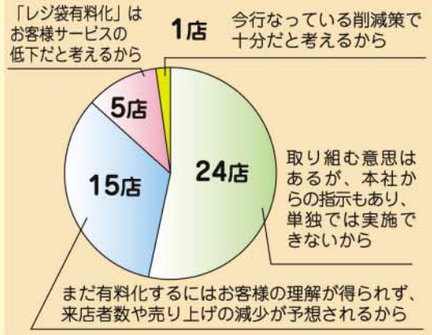
あきる野市のお店にレジ袋のことを聞いてみました!!

市内スーパー、コンビニエンスストアー、ドラッグストアー、ホームセンター等48店舗にアンケートを送付し、33店舗から回答がありました。
その主な結果は次のとおりです。

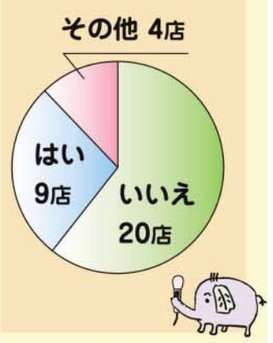
Q あきる野ごみ会議では、レジ袋の廃止を目指し「レジ袋有料化」を推進していきます。
ご協力いただけますか(複数回答可)



Q 現在、「レジ袋有料化」に取り組めていない要因はなんですか
（複数回答可）



Q 今後「レジ袋有料化」に取り組む予定はありますか



アンケートの結果を見ると残念ながら、CO2 排出削減、レジ袋使用削減に積極的に取り組んできた事業者は１社を除きありませんでした。そのほとんどの原因は、各店舗では、取り組む姿勢は見られても、本社・本部の意向が大きく、店舗独自では取り組めないという事情でした。今回アンケートをお願いしたお店のうち１社のみがあきる野市に本社を置く事業者で、その事業者が３年前から「レジ袋有料化」を実施し、レジ袋使用削減87%を達成しています。今後のごみ会議の取組みとしては、先ず市内スーパーの代表者（本社・本部のご担当者）に、レジ袋有料化の実態を知っていただくための、あきる野事業者の実施報告会、他地域の実施状況報告会を開き、それを出発点としてあきる野市全スーパーの「レジ袋有料化」の実現に向かいたいと思います。

こんな例もあるよ！

山梨県の例

山梨県では、中小スーパーを中心とした「山梨流通研究会」と消費者団体、行政が「山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会」を発足させ、平成20年６月30日から、全県下「レジ袋有料化」に踏み切りました。県の条例ではなく、「協議会」「市民団体」「商工会連合会」「山梨県」との、「協定」という形で協働としての取り組みです。開始当初は、18事業者107店舗（内、スーパー104店舗）でスタートし、１年後には、37事業者１組合465店舗（内スーパー113店舗）まで協定参加事業者が増えました。事業者はスーパー、百貨店、生協、農協、クリーニング業界まで拡大してきました。
１年経過して、マイバッグ持参率は、全体で85.2%（内スーパーは84.9%）＝レジ袋の使用削減が実現しました。

杉並区の例

杉並区では、レジ袋有料を推進する条例を制定し、平成20年４月１日より施行しました。

M.S

特別版

古着が大変身!?

― 手づくり、リメイク、楽しいよ ―

西多摩地区生活クラブ生協企画「リメイク教室」を訪ねました。

理事の葉狩さんのお話では、全３回の企画を「やりくり上手」「ムダのない暮らし」「地域のつながり」の３点を考えて、まずは「リメイク教室」を行なうことになったそうです。

若いころに
着たキュロット

ジャンパースカート

講師の島本さん

きっかけは洋服で個展をしてほしいとのギャラリーから依頼があったことです。多くの服を作るので、その材料として「いらない布や古着があったら下さい」と声をかけたら、すぐに部屋一杯も集まりました。どこの家庭も多くの不要な服、布が眠っているとわかり、これは何とか利用したいものだと思いました。

やってみるといろいろな点でメリットがあり（経済的・手がるである・実用的だ、など）自分の力量ひとつで、元の洋服たちがいろいろ変化する姿におもしろさを感じています。

最近では、この作る喜びやおもしろさをお伝えしています。

Aさんの意見

自分の着ていた物を娘の服に作っています。経済的だし、娘も喜んでうれしいです。

大人のベスト

ワンピース

ミシンを買ったので、使いこなしたいと考えていた時、島本さんと出会いました。
「リメイクでいこう！」とすぐ決めました。

風間さん
（幼児２人がいます）

着物を反物にもどします

まきスカート

その他の参加者の感想

- 今まで買っていた子供の服を手作りするようになった。
- バッグ、プールタオルなども買う必要がなくなった。
- ラッピングのヒモやリボン、ワッペンなど工夫しようという気になった。
- 受身の消費者から、工夫する自分へと変化した。
- 自作のものは愛着があり大切にする。
- 集中することができて時間を有意義にすごせるようになった。
- 切り裂いた服も資源として出せるので良い。

トレーナーが息子のズボンになるなんてびっくり

子供（140サイズ）
のズボン

もったいなくて捨てられない服が新しい子供服になって再生！大満足です。

小川さん（3人目の赤ちゃんが生まれます）

OL時代のツーピース

気に入っていた服をリメイクでまた着られることがとても嬉しい。欲しいものを探す手間もいらず希望通りのものができます。おまけに考える楽しみもあります。

竹原さん
（3ヶ月の赤ちゃんのお母さん）

胸のすきまをつくるのが大変でした。

授乳用のチュニック

文 M.T. 画 A.S.